

作詩 内藤 敏夫
作曲 岡田 巍

アンテナマンの歌

おぞらまんちよおににたかかくそびえるアントナナははせかんじ
いわピをむむむぶロンおマビヒタクルンニクば
さんじやくいひフィートのてはのとおけりあんぜんベルトにみを一かためれば
にあきるいふスパーナにがのち一がみ二か一よおるとわわれら
一わわれれらわれらはでんでんアアンナママシ

“アンテナマンの歌”作曲寸言

ビーム創刊号で、内藤敏夫さんのアンテナマンの詩を拝見し、これはイケると思った。

無線の象徴であるアンテナを建設し、保守するアンテナマンの心意見を大きく、力強く歌いあげたこの詩に深い感銘を受けた。

作曲にあたっては、歌いやすく、一度聞いただけでコーラスの出来るもの。たたみかけるようにパンチのきいたスケールの大きいもの。そして哀調を帶び、ハートにじーんとくるもの。などを欲張って考えてみた。

メロディーの発想は車の中で考えつき忘れないうちにと、部分的にテープにとり、組立てていった。

丁度、部内有志のテニス大会が江古田であり、試合終了後、ごくろう会の最中にあつかましくもギタ

ーを持ち出し、弾き語りで聞いていただいたところ“歌いやすいし、覚えやすいよ”との、みなさんの意見だった。渋谷局の木谷所長から早速テープにてって送ってくれないかと、うれしい註文もあってホッと一息、5線紙に写しかえたわけである。

最後にこの歌をコーラスでテープに吹きこんでくれた江古田のギタークラブのみなさんと、曲の監修をしていただいた東端マイクロスターズ時代の顧問であった松沢秀年さんに、誌面をおかりしてお礼を申しあげる。

45年10月

江古田統無中 岡田 巍

(註) “アンテナマンの歌”作曲は、本誌創刊号で募集し、数曲が寄せられ上記を採用いたしました。ご協力を感謝します。(編集局)